

研修だより

岩国市立美和西小学校

No. 1

2017. 11. 27

11/25 (水) 下先生研究授業 道徳「手品師」に学ぶ

11/25 (水) の下先生の研究授業では、たいへんお世話になりました。授業者の下先生は夏休みから指導案を作成し、それから何度も練り直して授業に臨まれました。そして下先生以外の先生方にも、多くのご尽力をいただきました。指導案を何度も検討していただいたり、児童役として模擬授業を受けていただいたり、また5年生以外の学級でも授業をさせていただいたり、学校全体で下先生の授業をバックアップしていただきました。研修主任が力不足な分、先生方に助けていただきました。本当にありがとうございました。心からお礼申し上げます。

さて、今回講師の花岡先生が、美和西小学校の研修主題に迫るための仮説①(手だて)として、7つの項目をあげていただきました。それに沿って、下先生の授業を振り返ってみたいと思います。

「自分の思いや考えを表現し、伝え合う児童の育成～書く・話す・聞く活動を通して～」

研究主題

- 1 教材・教具の工夫・・・◎
今回は挿絵、短冊を準備されて分かりやすかったと思います。
- 2 めあてからぶれない授業展開・・・○
自分自身に誠実に生きることの大切さに気付くというめあてはぶれなかったと思います。ただ、この価値観にもっていきこうという先生の思いを子どもが感じ取り、大劇場の夢を選ぶという意見が出にくくなってしまったように思います。
- 3 児童の意欲を引き出す発問の工夫・・・もう少し
葛藤し、自分の意見をみんなに伝えたい、というところまではいかなかったと思います。
- 4 自分の考えを書き、意見交換・・・○
自分の考えをワークシートに書くことはよくできていました。ただ、意見交換のときは、ワークシートを交換して読みあうことにとどまっていたので、友達は自分の意見と同じなのか違うのかなど、目的をもって交流させるともっとよかったと思います。
- 5 ペア学習、グループ学習・・・もう少し
4 で記述した通りです。
- 6 学習規律の徹底・・・◎
静かに先生の話聞き、発表は当てられてから立って言うなど、学習規律がしっかりと身に付いていました。下先生の学級経営がしっかりとされていることがよくわかりました。
- 7 振り返りの時間の確保・・・◎
振り返りは、書く時間も含めて8分間ありました。ほとんどの児童が書くことができ、さらに数名の児童に発表させることもできたのでよかったと思います。

研修主任の個人的な振り返りなので、語弊がありましたら、申し訳ありません。



考え、議論する道徳」を作るために大切なこと

～下先生 3年生でも道徳「手品師」を実践～

さて、今回講師の花岡先生のお話の中で、これから求められるのは「考え、議論する道徳」ということがありました。子どもが「あれ？」「う～ん。」と悩むような、すぐに答えの出ない道徳、「自分はどうかろう？」と振り返ってみたいくなる道徳が求められるということでした。その授業づくりに大事なこととして、様々なことを挙げられましたが、今回の授業をよりよいものにするために大切なことは、次のことだと考えました。

- ・話し合いの場で、子どもは話し合いの目的を共有しているか。
- ・子どもにとって、考えたいくなる仕掛けがあったか。
- ・出た意見を基にした対話が生まれたか。

実は、研究授業が終わった翌週に、下先生は3年生で指導案の内容を大きく変更して授業を実践されました。下先生もこの「考え、議論する道徳」の授業にするために、上記のことを強く意識して授業を組まれていました。

【話し合いの目的を共有】

ワークシートに書いたことをペアで紹介しあう場面では、「自分と同じ所、違うところはあるか比べながら読んでみよう。」と交流の目的を提示されたことで、子どもたちは目的をもち、自分の考えと比べながら読んでいました。さらに、隣の友達だけでなく、他の友達のところへ歩いて回るときも、目的をもってきちんと読めていました。子どもに話し合いの目的をきちんと持たせることの大切さを、下先生の授業から学びました。

【子どもにとって、考えたいくなる仕掛け】

また、主発問を、「男の子は来ないかもしれないのに、なぜ男のとの約束を選んだでしょう。」にされていました。男の子は絶対に来るとは限らないとなると、確かに約束を選ぶのはどうなのだろう、と葛藤場面が生まれました。他にも、ゆさぶりの発問として、「絶対男の所に行かないといけないの？」「夢の方を選ばなくてもいいの？うちのの方が安全よ。」などを随所に入れられていました。そのたびに、子どもは自分の価値観で考え直していました。

【出た意見を基にした対話】

今回も、大劇場への夢を選ぶ意見は出なかったため、「出た意見を基にした対話」は生まれませんでした。大劇場への夢を選ぶと意見をもよとする雰囲気を作り、子どものつぶやきなどを拾っていくと、両方の意見が出て、「出た意見を基にした対話」が生まれてくると思いました。

ワークシートに自分の考えを書くことができなかった児童がいましたが、ペアで読みあうときに、その児童が「これいいね。」とつぶやいていました。下先生はそれを見逃さず、「いいと思った友達の意見を発表してくれる？」と言って発表させました。そしてその意見を、二人の意見として二人の名前を板書されました。そのことで、書けなかった児童も自信を持ったようで、その後の別の発問のときに挙手して発表しました。子ども一人ひとりを大切にされる下先生の優しさを感じたひとこまでした。

研究授業が終わった後も、講師の先生の指導助言を受けてまた授業を実践される下先生の意欲に感心させられました。本当にお疲れ様でした。そして先生方、ありがとうございました。

3学期は永富先生の研究授業を予定しています。また多くの指導、助言をいただきながら、授業を作っていけたらと思っています。どうぞよろしくお願ひ致します。